

シンポジウム 地域資料の保存と活用を考える(第3回)

大阪の文書館をめぐる現状と地域資料保存・活用の課題

地域資料シンポ実行委員会では、2003 年 11 月の第 1 回シンポジウム開催以来、ネットワーク化を通じた資料活用の拡大を通じて地域資料の保存を強める活動を進めてきました。

しかし、今年 2 月、大阪市の公文書館運営事業が「事業仕分け」の対象となるなど、昨今の大阪における文書館をめぐる状況は厳しさを増しています。こうした現状をふまえ、文書館事業の改善を後押し、公文書を含めた地域資料の活用拡大に向けて支援を強化するため、第 3 回のシンポジウムを開催することになりました。

公文書管理法の成立も視野に入れながら、自治体の文書館が、地域の多様な資料保存主体や市民・歴史研究者と連携し資料活用の拡大をはかることを通じて、資料保存・利用状況を改善し、地域史研究の発展に寄与していくための方向性を探りたいと考えています。皆さまのふるってのご参加をお待ちしています。

日 時 2009 年 9 月 13 日(日) 13:00~16:45

場 所 大阪社会福祉指導センター 研修室② (大阪市中央区中寺 1-1-54、06-6762-9471)
(地下鉄谷町線「谷町六丁目」下車④番出口から徒歩 5 分)

内 容

■基調報告:地域資料シンポ実行委員会

大阪の文書館をめぐる現状とここに至った経緯を検討し、地域資料シンポ実行委員会のこれまでの活動の到達点をふまえ、問題の打開に向けて具体的な提言を行います

■メイン講演:小松芳郎さん(松本市文書館)

「自治体文書館の責務—公文書と地域資料を視野に一」

文書館をめぐる現状をどう打開するかをめぐり、国の動向も視野に入れつつ、松本市での経験をふまえて自治体文書館が目ざすべき方向性を提起していただきます

■パネルディスカッション

●地域の実践報告

高木秀彰さん(寒川文書館)／谷合佳代子さん(エル・ライブラリー)

厳しい現状のなか草の根の地域資料保存・活用を進めている取り組みを紹介し、その経験交流をはかり、大阪における課題と、相互連携の可能性を探ります

●質疑・討論

パネラー:小松芳郎さん・高木秀彰さん・谷合佳代子さん・亀岡哲也さん(近江八幡市)

コーディネーター:佐賀 朝(大阪歴科協)

資料代:300円(事前申し込み等は不要)

主 催:地域資料シンポ実行委員会

(構成団体:あおぞら財団、大阪歴史科学協議会、大阪歴史学会、NPO 法人西山卯三記念すまい・まちづくり文庫、地域資料研究会、歴史資料ネットワーク) *五十音順

後 援:全国歴史資料保存利用機関連絡協議会近畿部会

◆地域資料シンポ実行委員会 事務局

担当者 佐賀朝(地域資料研究会代表)
住 所 〒594-1198 和泉市まなび野 1-1 桃山学院大学
電 話 0725-54-3131 (代) 内線 3706
E-mail a-saga@andrew.ac.jp

◆大阪歴史科学協議会 事務局

住 所 〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138
大阪市立大学大学院文学研究科 塚田孝研究室気付
E-mail osaka_rekkakyo@yahoo.co.jp

